

## 一人一人に応じた乳がん治療を



うえお乳腺外科 副院長  
甲斐 裕一郎氏

日々、患者と共に。心を合わせ乳がんと向き合う。副院長として手術室でメスを振るうとともに、病棟の責任者として中心的立場で入院患者をケア。術後のホルモン療法や抗がん剤治療、転移・再発の治療も多く担う。

最新の医療を提供する努力を欠かさず、個人に合わせた治療を心掛ける。例えば、薬物療法では、5カ月前に登場した遺伝性乳がん症例の治療薬も積極的に導入した。「遺伝性乳がんは全体の5〜10%ほど存在し、転移・再発の患者さんのうち、遺伝子検査でこのタイプと確認された人が対象となる新薬。副作用が比較的少なく、有効性が期待されます」と話す。乳がんの早期発見にも努める。県内の乳がん検診のマンモグラフィー読影で力を発揮。講

### 病院DATA

- 診療科目  
乳腺外科
- 診療時間(完全予約制)  
月・火・水・金・土 / 8:30~12:00、13:30~15:30
- 休診日  
木曜、日曜、祝日



先輩患者の寄贈作品ギャラリー

習会などでは指導的立場でもある。従来、うえお乳腺外科では症状のある人や検診で要検査となった人だけを受け付けていたが、昨年11月、要望に添えて乳がん検診の枠を設けた。「病気だけをみてはいけない」。いつも自分に言い聞かせていることだ。「乳がん治療を受ける患者さんが不安に思うことや家庭・職場で背負う責任は異なっている。それぞれライフスタイルや家庭環境、人生観があり、会話をすることで患者さんの要望をお聞きするようになっています」。サポート

トに徹し、一人一人の人生に寄り添う。自治医科大学卒業後、公立病院での10年間の勤務を経て、2006年にうえお乳腺外科の一員となった。上尾裕昭院長とは県立病院で2年間を共に過ごし、気心の知れた仲。5人の医師たちは昼食を共にし、情報共有を欠かさない。チームワークの良さが何よりの強みだ。「患者さんが笑顔になれるように、私も笑顔で頑張りたい」。温かなまなざしを未来へと向ける。

